

病理の松本助教授が異例の解剖結果から「これは胎児性小児水俣病にまちがいない」と注目の発表をし、三十四年らしいこの問題と取り組んでいる小児科でも一応の結論をまとめているもようである。また会のメンバーではないが精神神経科でも、ことし六月らしいの観察の結果として「これらはいきわめて共通した特異な症状があり、すべて同一原因による同一症患者と診定する」という見解を、二十五日の松本助教授発表に追加報告している。

きょうの審査会では、これらの研究陣の研究結果を持ち寄り、じゅうぶん論議したうえ、最終的な結論を出すもようである。

いっぽう、「一日も早く診定を」と叫び続けている現地の患者の家族たちは祈るような気持ちでこの審査結果を待っている。

なお同審査会が開かれるのは昨年六月くらいで、このときは死亡した脳性小児マヒ患者一人を水俣病と診定している。

『脳性小児マヒ』に結論

きょう注目の審査会

水俣病患者審査会（貴田丈夫委員長）は、きょう二十九日午前十時から熊本市花畑町の東洋軒で非公開で行なわれるが、席上注目の水俣地区の脳性小児マヒ患者を水俣病と診定するかどうか、最終的に論議されるものとみられている。

同日は貴田委員長はじめ熊大側から小児科の原田助教授、病理の武内教授、内科の徳臣助教授、現地から大橋水俣市立病院長、伊藤水俣保健所長、小川新日窒水俣工場付属病院長、県から浜崎衛生部長らの委員、それに神経精神科からもオブザーバーとして出席する予定。

審査の対象となる脳性小児マヒ患者は、さる九月死亡した一人を含める十六人。さる二十五日には